◆考 察

近畿ブロックにおける就労支援に関する調査研究について

「厚生労働科学研究事業費補助金 障害者対策総合研究事業 高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」の近畿ブロックの研究テーマとして、平成 24 年度から 3 ヶ年かけて「高次脳機能障がい者の就労支援」に取り組んだ。過去 2 年間は、まず医療機関、障害者就業・生活支援センター等の関係機関へのアンケート調査により、統計的手法を用いて現状を明らかにしようと研究を進めた。

平成 24 年度は大阪府内の医療機関や主に就労支援を行っている福祉機関への調査により、“新規就労の困難さ”“医療・福祉機関が連携することで、お互いの困りごとを補い合える可能性”“就労支援における医療と福祉の連携の橋渡し役を障害者就業・生活支援センターが担いうる可能性” などを見出した。

平成 25 年度は前年度の結果を受け、近畿ブロック圏内における障害者就業・生活支援センターでの支援の現状について調査を行った。結果からは、ほとんどのセンターで登録者がおり、受傷・発症からの期間や登録からの期間が長くとも、支援によって就労に結びついたり、何らかのサービスにつながっていること、フォローアップの体制が取られていることが明らかにされた。その一方で、就労に直結する具体的要因や支援の工夫点を見出すことまでは困難であった。これは、就労を目指す高次脳機能障がい者の社会参加の可否は、多くの要素（本人自身の状態像・家族を含む社会的状況・支援機関の関与具合など）が複合的に影響しているためであろう。そこで、そういった個別性の高い要因や支援技法を集積し、共有するため、最終年度である平成 26 年度に「事例集」を作成することとした。

事例から見える各機関の支援の特徴

集まった事例の中に登場する高次脳機能障がい者の発症・受傷した年齢、支援に至るまでの期間や経過、障がいの程度、就労に支障となる症状の内容は千差万別であり、また、支援を受けた後にたどる経過や結果もさまざまである。支援者側としても、支援に伴う悩みや工夫もそれぞれであり、一つとして同じではない。そこが、高次脳機能障がい者支援の特徴でもあり、困難な点とも言えよう。それでも、各機関ごとに一定の支援の特徴や課題、方向性が見て取られたため、以下、概観する。

➢高次脳機能障がい支援普及事業支援拠点機関

支援拠点として、本人・家族からの相談のみならず、さまざまな機関から紹介がある。そのため、単なる就労支援にとどまらず、最初に生活面や経済面の立て直し、諸制度の利用を要するものなど、幅広いケースに対応している。そして、支援のコーディネート役として、医療機関や相談支援機関、障がい福祉サービス事業所等と連携し、切れ目なく、長期的な視野に立った支援を意識していることがうかがわれる。

また、訓練部門を有している場合は、自立訓練（生活訓練又は機能訓練）等を通じて、基本的な生活リズム、社会生活能力、代償手段の獲得についての訓練を提供したり、環境調整に関する助言を行ったりすることで、就労に求められる土台部分を形成するのに一役買っている。

専門的な相談機関として膨大な相談が集まるという特色を踏まえると、いかに支援の中心

を地域の機関にシフトしていくか、また、当事者への直接的な支援だけではなく、地域のスーパーバイザーとして、効率よく間接的な支援を行えるかを模索することも必要と考えられる。

➢医療機関

医療機関における高次脳機能障がい者支援について、入院であれば、退院までの限られた期間での就労支援が求められることも多い。また、通院であっても、リハビリテーションなど医療面でのかかわりが中心であり、就労支援については限られた範囲での関わりになる。そのような中、本人・家族及び福祉機関にとっては、セラピストを中心とした高次脳機能障がいについての専門知識を有したスタッフによる訓練や環境調整についての助言を直接受けられることは大きな強みになる。

一方で、医療機関の課題として、病院外へ出て支援を行うことや職場・関係機関と直接やり取りすることの困難さ（本人や家族を通すことが多い）、障害者職業センターや障害者就業・生活支援センターといった支援機関へつなぐタイミングのわかりにくさといった声があげられている。

➢障害者就業・生活支援センター

多くは他機関からの紹介により支援がスタートしている。地域資源利用について、必要な機関への橋渡しを行っており、紹介元機関を含め、多くの機関が連携する際の調整役として重要な役割を担っている。また、相談の中で、本人・家族と寄り添いながら信頼関係を築く、就労意欲の低下を防ぐ、障がいに対する気づきを促すといった工夫を特に丁寧に行っていることがうかがわれる。

課題としては、本人の症状や対応法の理解については医療機関とさらに密なつながりを持つことで、知識・技術を深めていくことが求められる。また、医療機関から「つなぐタイミングを見極めるのが難しい」との声がある一方、センター側からも医療機関に対して「もっと早く（もしくは時期が来てから）つないでほしかった」と聞かれることもあり、紹介を受けるタイミングの調整も今後整理していく必要があると考える。

➢障害者職業センター

職業相談から職業評価、就職支援、職場適応（ジョブコーチ支援など）まで一貫した職業リハビリテーションを行う機関として、きめ細かな支援とフォローアップを通じた職場定着支援が行われている。

また、職場への定着を進めていくためにも、継続的な本人及び支援機関へのサポートが重要であり、障害者職業センターで得られた技能や工夫点についての知見をいかに地域の支援機関等へ引き継ぐかが課題となる。

➢障がい福祉サービス事業所等

就労移行支援、就労継続支援B型、企業など、就労（もしくはそれを模した）場面という実践の場で、就労にあたっての課題の把握と、障がいを補うための工夫や環境調整、そして就労訓練が“具体的な形”（実際の仕事を想定した作業）で行われている。そのため、本人の気付きを促したり、強みを発見したりすることにつながりやすい。また、高次脳機能障がいに特化した訓練等を行っていない事業所（地域の大半の事業所はそうであると思われる）で

は、支援拠点機関や医療機関と連携のもと、既存のノウハウをいかに活かし、新しい知識をいかに取り入れるかを試行錯誤している様子が見られる。

以上、抽出された現状や課題を見渡すと、各機関で補い合える部分が散見される。そして、事例の中では、連携し、すでにお互いの強みを出し合い、補い合っているケースも多数ある。一方で、実際の支援現場では、タイミングや地域資源の多寡により、連携がうまく取れないことも少なからずある。その結果、自ら抱え込んでしまったり、すでに実績がある機関のみに頼りがちとなり、特定の機関でどこまで受け入れ、対応できるかの調整が、日々の課題になっているのが現状である。それが続くと、特定の機関のみに負担が集中してしまい、結果として、支援の滞りや支援者の疲弊につながる。そうならないために、再度、各機関が自分たちの役割と限界を発信し、他機関の情報をキャッチすることが望まれる。その上で、お互いの役割をしっかりと理解し、連携することで、上で述べたような各機関の特徴を生かした支援内容が有機的につながってくるだろう。

支援のポイント

次に、事例全体を通して考えられる支援のポイントを以下にあげる。

➢本人理解（障がい理解含む）

能力面だけでなく、気持ちの面でも本人理解を深めていくことが本人・支援者双方にとって大切である。支援者は、本人の持つ気持ちに寄り添うとともに、常に客観的な視点を忘れないことが求められる。つまり、本人の希望は何なのか、どこまで自身の障がいを理解しているのかを知り、それを受け止め、働くことへの意欲を保たせ、例えば、障がい者雇用や経済的不安定さに対する不安や葛藤を取り除くようサポートし、現実的な選択肢を提示していく。ただし、本人の納得のためには困難と思われる事にもチャレンジしてもらい、その後どのようにフォローするかを考えるといった柔軟かつ長期的な視点を持つことも必要である。

➢基本的生活習慣や社会生活能力の獲得

就労を目指すにあたって、その前段階である、日常生活の安定や一定レベルの社会生活力（他者とのコミュニケーションや外出能力など）が必要である。本人・家族には訓練せずとも、以前のように出来ると感じられやすかったり、一見、就労とは直接関係のないように見られがちな、これらの能力を身につけることが、就労への重要なステップとなる。

➢代償手段の獲得と環境調整

症状の程度が同程度であっても、代償手段を工夫したり、職場環境（物質的な物だけでなく、人的な資源も含む）を調整することで、就労状況に大きな差が出る。支援者は就労環境を調べ上げ、できる工夫はすべて行うというの気概で、環境を調整し、改善を実行することが望まれる。

➢医療との適切な連携

就労に向けた課題の背景にある症状を適切に捉え対応しなければ、課題の解消には至らない（例えば、ある手順が覚えられないのは“忘れてしまうから”なのか“そもそも意味が理解できないからなのか”。両者で対処手段が異なる）。高次脳機能障がいの症状は複合的で多

岐にわたるため、医師やセラピストといった専門家に常に相談できるよう、医療とは、どの段階であってもつながっておくのが望ましい。また、就労可能の証明や復職の判断に医師が関与する点を鑑みても、その必要性は高い。

➢職場支援（定着支援）・家族支援

本人が就労に至ったとしても、それはゴールでは無い。そして、就労後に最も本人と接するのは就労先の職場関係者であることを忘れずに、支援を組み立てる必要がある。つまり、就労までは障がいについての専門家が関わることが大半だが、就労後は、非専門家が日々関わるということを意識し、その視点でフォローアップを行うことが求められる。また、就労を陰に陽に支えているのは家族である。“本人を支える家族”を支えることが最終的には本人支援につながることを忘れてはならない。

まとめと今後の課題

以上、各機関の支援の特徴や支援のポイントをまとめたが、それらはこれまでの調査結果や各地で積み重ねられてきた知見を裏づけ、補完するものとなっている。つまり、各機関の特徴からは一昨年度、昨年度得られた結果をなぞった上で、より詳細が明らかにされ、支援のポイントからは「高次脳機能障害者支援の手引き」をはじめ、高次脳機能障がい者支援で繰り返し叫ばれている支援技法をいかに就労支援で生かしていくかが見出された。

改めて、以上の特徴・ポイントを意識しながら事例を読むことで、理想論では無く、各地域の事情を踏まえ、乗り越え、支援を行っている姿が垣間見える。今後も各地で実践を重ね事例を集積することが、その土地独自のネットワークを確認・活用することにつながり、後に続く支援者にとって、有意義であることがわかる。そして、事例を積み重ねるだけでなく、共有することこそが、ネットワークを実質的なものへと発展させる契機になるであろう。

今回も確認された“つながり”“ネットワーク”の重要性は周知のものであり、各地で作られつつある。今後はその“つなぎ目を強化する”作業が必要になると考えられる。ひとつは、本事例集のような事例の共有があげられる。事例集を読むことで、高次脳機能障がいの各症状の就労場面での現れ方や対応法、機関同士の連携の仕方の実際を学ぶことができ、各機関の受け入れの指針になる。次に各支援機関同士をつなぐツール（例えば、本人の情報を「情報提供書」などにまとめた共通のフォーマット）があげられる。複合的な課題を抱えた高次脳機能障がい者の就労支援に向け、情報共有化を図るためのツールは今後、必須である。すでに試行している地域・機関もあるため、それらを参考にして、各所で作成・利用していくことが望まれる。最後に、現場からの声や事例で聞かれた困りごとを元に作成する「支援マニュアル」が考えられる。「支援の手引き」のような大枠のマニュアルとともに、現場からの声を吸い上げ、常にアップデートできる「マニュアル」をネットワークで共有することは、支援者のつながりを促し、不安点を解消し続けるツールになり、さらに地域のどこに行っても、当事者が同じ水準の支援を受けることにもつながる。

支援普及事業が成熟してくる中、トップダウンの方策だけでなく、以上のような現場からのボトムアップの方策の重要性がますます増してくると考えられる。

知恵と工夫にあふれた事例の数々が、高次脳機能障がい者の就労支援に悩まれている方々にとって、励ましと力になれば、幸いである。

近畿ブロック　研究発表（論文）

著者名	タイトル	発表誌名	巻号（ページ）	出版年
大阪府				
天野 隆夫・鈴木 明善・西野 朋子	「大阪府における高次脳機能障がいのネットワークについて ～大阪府高次脳機能障がい支援普及事業を中心に～（仮題）」	大阪府障がい者自立相談支援センター紀要	—	H27年（予定）
北惠 詩穂里・辻野 精一・土岐 明子・山中 緑・野口 和子・渡邉 学	中枢性疼痛を伴う余剰幻肢を呈した橋出血の1例	脳卒中	36（P266-270）	平成26年

近畿ブロック　研究発表（学会発表）

発表者名	タイトル	学会名	場所	日時
京都府				
大戸　淳志	「京都府の高次脳機能障害支援普及事業における相談支援の取組み」	リハビリテーション・ケア合同研究大会長崎2014	長崎市	平成26年11月6～8日
武澤　信夫	「小児期発症の高次脳機能障害の現状」	第38回日本高次脳機能障害学術総会	仙台市	平成26年11月28～29日
兵庫県				
高野真，一角朋子，上野正夫，奥田志保	頭部外傷後の高次脳機能障害の予後に関する臨床的検討	第55回日本神経学会学術集会	東京	平成26年5月21日～24日
高野真，一角朋子，上野正夫，奥田志保	頭部外傷後遺症患者では受傷長期経過後もリハビリテーションの効果を認める	第51回リハビリテーション医学会学術集会	名古屋市	平成26年6月5日～7日
高野真，上野正夫，一角朋子，奥田志保	視覚失認を呈した蘇生後脳症の一例	第28回日本神経救急学会学術集会	静岡	平成26年7月11日～12日
山本晃輔，鍋田智広，豊田弘司，上岡辰夫，白川雅之，清水寛之	記憶と学びの生涯発達から見る発達研究(2)　基礎と実践の循環	日本発達心理学会第26回大会	東京	平成27年3月20日～22日
大阪府				
池埜 弥生	大阪府における高次脳機能障がい者の「自動車運転評価モデル事業」の紹介	第2回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会	福岡	平成26年9月27日
中岡 真弘・池埜 弥生・渡邉 学・増田 基嘉	安全運転に対する意識の欠落により運転能力不適正判定となった事例の考察 ～大阪府高次脳機能障がい者自動車運転評価モデル事業より～	第2回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会	福岡	平成26年9月27日
安部 紫	高次脳機能障がいがある身体障がい者への認知訓練プログラム「脳リハ」の試み	身体障害者リハビリテーション研究集会2014	高松市	平成26年11月13日
山中 緑・渡邉 学	回復期リハビリテーション病棟における頭部外傷者の転帰について	第38回日本高次脳機能障害学術総会	仙台市	平成26年11月28～29日
辻野 琢也・渡邉 学・山中 緑	近畿ブロック圏内の障害者就業・生活支援センターにおける就労を目指す高次脳機能障がい者についての調査	第38回日本高次脳機能障害学術総会	仙台市	平成26年11月28～29日

平成26年度厚生労働省科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）分担研究報告書
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」
研究分担者　平岡　崇　　川崎医科大学リハビリテーション医学教室准教授

研究要旨

中国ブロックの平成26年度の活動としては、原則過去の活動方針を踏襲しており大きな変更点はない。中国ブロックとしての核となる活動として、本年度も下記のごとく1回/年の中国ブロック連絡協議会(以下 本協議会)と研修会を実施した。本協議会は、各県拠点機関職員および家族会代表者(オブザーバーとして行政担当者など)で構成されている。本協議会ならびに研修会は各県持ち回りで実施しており、本年度は山口県山口市で開催された。本協議会の場において、平成27年2月19日20日に東京で開催された全国連絡協議会ならびにコーディネーター会議での会議内容につき説明を行い、中国ブロックでも意思統一を図った。続いて、各県から報告をいただいた。本年度の会議においては、中国ブロック連絡協議会の存続の方策についての議題に多くの時間が割かれた。今後とも引き続き、高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に向け統一した大方針のもと全力で取り組むことが確認された。

A.　研究の目的

中国ブロックにおいて地域の特性を踏まえ高次脳機能障害者の社会参加支援を推進するために有効な方策を検討することを目的とする。

B.　研究の方法

①　各県の支援拠点機関を中心に実情に応じた社会参加支援を実施しその方法等につき検討を行う。

②　各県の支援実績や支援上の問題点などにつき、中国ブロック連絡協議会(1 回/年)にて報告することで情報の共有・分析を行い、より効果的支援につなげるための検討を行う。

（倫理面への配慮）

本研究は「ヘルシンキ宣言」ならびに「疫学研究に関する倫理指針」（平成20年12月1日一部改正)を遵守し実施する。得られた調査結果は本研究の目的のみに使用する。本研究結果の発表の際には個人の特定ができないよう万全の配慮をする。個人情報の公開が必要な場合は、本人および家族の同意を書面にて行う。また本研究については随時参加撤回が可能である。

C.　研究結果

1．　中国ブロック連絡協議会の体制

厚生労働省「高次脳機能障害支援ネットワーク」研究班の指針に則り、各県拠点機関職員および家族会代表者(オブザーバーとして行政関係者)で委員を構成し、中国ブロック連絡協議会を組織した。本協議会の委員長には中国ブロック統括である平岡崇が、副委員長には、後藤祐之(福祉部門)・八木真美(医療部門)の両名が選任されている。

2．　中国ブロック全体での活動

①中国ブロック連絡協議会

日時：平成27年3月7日（土）12：15～13：30

場所：山口県健康づくりセンター第2研修室（山口市吉敷下東三丁目1番1号）

②中国ブロック研修会

日時：平成26年3月7日（土）10：00～16：30

場所：山口県健康づくりセンター（山口市吉敷下東三丁目1番1号）

(講　演)「みんなで取り組もう！高次脳機能障害ーデイケアの形式を取ったグループ訓練ー」

講　師	筑波記念病院　精神科医長	山里道彦　氏
座　長	山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態分野准教授	松尾幸治　氏

(講　演)「高次脳機能障害者の支援について　～山口県の状況～」

講　師	特定非営利活動法人 キセキ 理事長	徳本武司　氏

(講　演)「子どもの脳機能障害　支援のポイント」

講　師	千葉リハセンター高次脳機能障害支援ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	太田　令子氏
座　長	山口県立こころの医療センター院長	兼行浩史　氏

(シンポジウム)「子どもの脳機能障害の支援について考える　～医療、福祉、教育の連携～」

シンポジスト	川崎医科大学附属病院 支援コーディネーター	八木真美　氏
	広島県立障害者リハセンター作業療法士	川原　薫　氏
	山口県立山口総合支援学校　教諭	木村彰孝　氏
アドバイザー	筑波記念病院　精神科医長	山里道彦　氏
	千葉県千葉リハビリテーションセンター	太田令子　氏
コーディネーター	山口県立こころの医療センター副院長	加来洋一　氏

各県における活動実績

岡山県	
支援拠点機関	川崎医科大学附属病院　086-462-1111 社会福祉法人　旭川荘　086-245-7361
支援 Cd	言語聴覚士　1名 精神保健福祉士　1名
相談者数（12 月末）	直接相談　来院／来所／出張　川崎 378 件　電話／メール等　川崎 35 件 間接相談　来院／来所／出張　川崎 14 件　電話／メール等　川崎　31 件 直接相談　来院／来所／出張　旭川 76 件　電話／メール等　旭川 14 件 間接相談　来院／来所／出張　旭川 3 件　電話／メール等　旭川 70 件
活動実績	①ワーキンググループの活動 （失語WG） ・失語症者に対する福祉サービス利用の調査（就労継続支援A型） ・失語症者を対象とした日中活動の実施（週 1 回） （小児WG） ・支援学校教員を対象とした研修会の実施 ・データ収集　学習の障害を引き起こす要因の検討 （医療WG） ・症例検討会の実施　6 回　参加延べ人数 153 名 （地域連携WG） ・県北地域における相談のあり方について検討 （精神科WG） ・高次脳外来において心療科、精神科医療機関との連携 （福祉WG） ・高次脳機能障害者（失語症）を受け入れている福祉施設への助言 ・真庭地域における高次脳機能障害者向けサービスの運営 ②研修会の開催及び協力 ・岡山県高次脳機能障害支援研修会及び岡山県リハビリテーション講習会の開催 ・地域や専門職団体の研修会への協力 ③当事者会活動への協力 ・各家族会活動への協力 ・工房かたつむりへの協力 ・岡山市自立支援協議会フォーラムにおいて情報発信の場を確保 ④調査・研究 ・高次脳機能障害学会等での発表 ・高次脳機能障害外来受診者の長期経過に関する検討 ・神経心理学的検査と運転能力評価ソフトを用いた脳損傷者の自動車運転能力 の評価に関する検討

次年度の活動予定および課題など	＜次年度の活動予定＞ ①普及・啓発に再度注力する中で、情報発信のあり方を見直し。 ②教育分野との連携を継続する。 ③医療・福祉・就労等に係る個別支援の継続実施。 ④小児の学習の障害を引き起こす要因、高次脳外来受診者の長期経過、自動車運転能力の評価について検討を継続。 ⑤各家族会との協力・連携 ＜課題＞ ①全県的な普及啓発がかつてに比べて滞っていること。 ②失語症者を対象とした日中活動の周知

平成２６年度高次脳機能障害支援事業実施状況（中国ブロック）

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
26年5月12日	高次脳機能障害実践的アプローチ講習会	支援者、当事者、200名	高次脳機能障害者のコミュニケーション行動の理解 種村　純
26年6月1日	草木舎 講習会	当事者、家族、支援者50名	高次脳機能障害者の支援 ～岡山県の支援とNさんの14年間～ 八木真美
26年6月5日	日本リハビリテーション医学会構造教育講演	医療関係者、500名	高次脳機能障害対応　脳梗塞による高次脳機能障害とその対応 平岡　崇
26年7月23日	日本赤十字看護大学　摂食･嚥下障害看護認定看護師講習会講義	医療関係者、30名	高次脳機能障害者における嚥下障害 平岡　崇
26年9月9日	おしゃべり会 講習会	当事者、家族、支援者、100名	高次脳機能障害を理解するために～さまざまな症状を理解しよう～ 宮﨑彰子
26年9月15日	ナースのためのリハビリ講座、高次脳機能障害	医療関係者、100名	高次脳機能障害とは 種村　純
26年9月20日	青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会	一般、支援者、100名	高次脳機能障害者の社会参加 平岡　崇
26年10月5日	平成26年度岡山リハビリテーション講習会	医療関係者、家族、支援者　100名	高次脳機能障害者の自動車運転と移動支援 蜂須賀研二、中山剛
26年11月3日	ナースのためのリハビリ講座、高次脳機能障害	医療関係者、100名	高次脳機能障害とは 種村　純
26年11月15日	高次脳機能障害研修会（中信地域）	医療関係者、当事者、200名	失語症者に対する社会支援 種村　純
26年12月17日	第3回指導主事パワーアップ学習会	教育関係者30名	高次脳機能障害の理解と支援について 宮﨑彰子 八木真美

27年1月29日	第25回 回復・維持期リハを考える会/第22回 熊本脳卒中地域連携ネットワーク研究会	医療関係者 500名	特別講演：脳卒中による高次脳機能障害の支援と連携 平岡　崇
27年1月29日	平成26年度岡山県高次脳機能障害支援研修会	医療・福祉・行政関係者60名	岡山県、拠点機関職員、家族会会員
27年2月7日	高次脳機能障害者支援のための研修会	医療関係者、当事者、180名	失語症のある高次脳機能障害者の支援について 種村　純
27年2月8日	第1回京都リハビリテーション医学研究会学術集会		教育講演：脳外傷による高次脳機能障害の基本 椿原彰夫
27年2月14日	なるほど、なっとく、高次脳機能障害	支援者、当事者、200名	高次脳機能障害者にとってのコミュニケーション 種村　純
27年2月21日	旭川荘療育アカデミー	当事者、家族、支援者	講演　高次脳機能障害者の日常生活を支援するために 阿部順子 ほか
27年3月7日	中国ブロック研修会	当事者、家族、支援者	シンポジウム「子どもの脳機能障害の支援について考える～医療、福祉、教育の連携～」 八木真美

広島県	
支援拠点機関	広島県立障害者リハビリテーションセンター 広島県高次脳機能センター　電話番号　082-425-1455 【地域支援センター】 （広　島）　広島市立リハビリテーション病院　082-848-8001 （広 島 西）　廿日市記念病院　0829-20-2300 （　呉　）　呉中通病院　0823-22-2510 （広島中央）　井野口病院　082-422-3711 （尾　三）　尾道市公立みつぎ総合病院　0848-76-1111 （福山・府中）　脳神経センター大田記念病院　084-931-8650 （備　北）　三次地区医療センター　0824-62-6328
支援Cd	３名（社会福祉士・精神保健福祉士、相談支援専門員、臨床心理士）
相談者数（12月末）	支援拠点相談対応延べ件数　2140件 うち新規相談者延べ件数　188件（当事者・家族72件　関係機関116件）

活動実績	医療リハビリ（入院・外来） 院内家族セミナー（月２回開催　延べ　177 名(12 月末)） 高次脳機能障害研修会（年１回　160 名） 地域の研修会への講師派遣 関係機関との連携会議の開催及び参画（ 43 件中、小～大学校との連携 7 件、職業訓練校との連携 6 件、就労関係機関との連携(雇用事業所含む)13 件、福祉関係機関との連携 17 件）
次年度の活動予定および課題など	＜次年度活動予定＞ ・拠点施設機能の体制整備 評価、診断、リハビリ、相談支援、啓発活動の継続 高次脳機能障害者新病棟のスムーズな運営 ・地域支援ネットワーク活動 広島県高次脳機能障害連絡協議会の開催 地域支援センターとの連携 関係機関との連携（就労・就学・福祉・医療等） 家族会との連携 ・各種事業への参画 広島県及び東広島市自立支援協議会への参画 雇用関係会議等への参画 職業能力開発校委託訓練における高次脳機能障害者への支援 ＜課題＞ ・地域支援センターの機能強化及び連携強化 ・地域の社会資源の開拓（地域包括支援センター及び相談支援事業所との連携） ・小児への支援（発達障害児支援機関や教育機関との連携）

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H26. 4. 23	あいサポート研修	障害者施設いくせい 20 名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26. 5. 22	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10 名	「高次脳機能障害とは」 川原薫
H26. 8. 21	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10 名	「高次脳機能障害に対する作業療法評価」 花房萌子
H26. 8. 25	障害支援区分認定調査員現任研修	認定調査員 80 名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26. 8. 26	東広島脳疾患治療講演会	医師 10 名	「広島県高次脳機能センターでの抗てんかん薬の使用経験」 近藤啓太
H26. 9. 18	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10 名	「神経心理学的検査結果の見方―知的機能」 澤田梢
H26. 9. 25	平成 26 年度中国四国身体障害者施設長会議内特別講演	障害者施設職員 50 名程度	「高次脳機能障害へのリハビリテーション」 近藤啓太

H26.10.23	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10名	「ＳＴで実施している高次脳機能障害の評価」 土肥洋子
H26.11.22	広島県リハビリテーション講習会	当事者家族、医療保健福祉関係者 160名	「高次脳機能障害者の就労支援の現状」 障害者障害者総合センター 田谷勝夫 氏 「広島県の就労支援機関からの報告」 県立障害者リハビリテーションセンターあけぼの 百川 晃 氏 クラブハウス・シェイキングハンズ 山田 京子 氏 広島障害者職業センター 植木 康敬 氏 広島中央障害者就業・生活支援センター 梶川 和美 氏
H26.11.26	認知症サポーターフォローアップ研修	認知症サポーター，包括支援センター 40名	「脳卒中後の認知症状のある方（高次脳機能障害者）のこころ」 澤田梢
H26.12.8	あいサポート研修	広島文化学園大学　学生 30名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.12.14	第11回広島脳卒中市民シンポジウム	一般市民、患者家族、医療保健福祉関係者 500名	「高次脳機能障害とは」 村田芳夫
H26.12.16	あいサポート研修	熊野第一小学校5年生 80名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H26.12.25	あけぼの高次脳機能障害勉強会	あけぼの職員 10名	「神経心理学的検査結果の見方―遂行機能」 澤田梢
H27.1.13	相談支援専門員現任研修	相談支援専門員 140名	「高次脳機能障害について」 隅原聖子
H27.1.26	府中町自立支援協議会	自立支援協議会メンバー	「障害のある人々の暮らしを地域で支える為に」 隅原聖子
H27.1.27	あいサポート研修	県庁職員	「高次脳機能障害について」 隅原聖子

島根県	
支援拠点機関	【県支援拠点機関】 島根県立心と体の相談センター（℡０８５２－２１－２８８５） エスポアール出雲クリニック　（℡０８５３－２１－９７７９） 【圏域支援拠点】 （松江圏域）厚生センター相談支援事業所　（℡0852-60-0560） （雲南圏域）そよかぜ館　（℡0854-42-8011） （出雲圏域）エスポアール出雲クリニック　（℡0853-21-9779）

	（大田圏域）亀の子サポートセンター　（TEL0854-84-0273） （浜田圏域）西部島根医療福祉センター　（TEL0855-52-2442） （益田圏域）相談支援事業所ほっと　（TEL0856-31-5433） （隠岐圏域）太陽　（TEL08512-2-5699）
支援 Cd	全県担当１名（心理技術者） 圏域担当者７名（精神保健福祉士、社会福祉士、相談支援専門員）
相談者数（12 月末）	当事者/家族からの直接相談延べ件数電話　654 件、来院/来所 1066 件、メール・書簡 157 件、その他（訪問. 出張. 同行等）323 件 機関. 施設等からの間接相談延べ件数　電話 1102 件、来院/来所 197 件、メール・書簡 286 件、その他（訪問. 出張. 同行）128 件
活動実績	・７圏域に相談支援拠点の設置し、各圏域でネットワーク会議、ケース検討会議、家族の集いを開催 ・支援機関職員を対象とした派遣研修の実施 （広島県立障害者リハビリテーションセンターに２名派遣） ・専門相談会の開催（隠岐の島） ・新聞等を活用した広報 （山陰中央新報に県重点広報として掲載） ・研修会の開催（全県、圏域単位） （県主催で小児の高次脳障がいをテーマに研修会実施） （６圏域において、圏域の課題に応じた研修会実施） ・高次脳機能障がい支援普及啓発リーフレットの作成・配布 ・島根県障がい者自立支援協議会高次脳機能障がい者支援部会において、今後の取り組みの方向性について検討 ・日本脳外傷友の会全国大会２０１４ｉｎしまねへの協力
次年度の活動予定および課題など	【活動予定】 ・圏域相談支援拠点を中心とした圏域単位での支援ネットワークを構築する。 ※ネットワーク会議、ケース検討会議（各４回程度）を圏域毎に開催 ・新聞等を活用した広報 ・研修会の開催等 【課題】 ①拠点施設、ネットワーク整備 ・圏域相談支援拠点におけるアセスメントの充実、専門性の確保 ②人材育成・普及啓発 ・一般的な普及啓発研修の充実及び支援関係者（相談支援、就労支援、教育、介護事業所）の資質向上 ・小児高次脳機能障がいの支援 ・地域住民の障がいに対する理解の向上 ③医療と福祉の連携 ・圏域相談支援拠点と医療機関との連携の充実

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
H26. 4. 4	施設職員研修 （厚生センター相談支援事業所）	施設職員 10 人	講義「高次脳機能障がいの理解」 講師　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26. 5. 2	地域活動支援センター施設職員研修（亀の子サポートセンター）	施設職員 18 人	講義「高次脳機能障がいの理解」 講師　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏

H26.7.6	第７回しまね高次脳機能障害研究会 （しまね高次脳機能障害研究会）	支援関係者 75 人	テーマ「障害特性とリハビリテーション」 基調講演「高次脳機能障害と発達障害」 講師　国立障害者ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ病院 臨床研究開発部長　深津玲子　氏 座長　エスポアール出雲クリニック 院長　高橋幸男　氏 事例検討会
H26.7.7	特別支援教育校内研修会 （大田市立久手小学校）	学校教員 23 人	講義「子どもの高次脳機能障がいについて」 講師　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26.7.15	隠岐圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （太陽）	圏域ﾈｯﾄﾜｰｸ構成員・教育機関の関係者 21 人	講義・事例検討会 「小児の高次脳機能障がい」 講師　東部島根医療福祉センター 言語聴覚士　山﨑佳史　氏
H26.8.2	平成 26 年度島根県高次脳機能障がい者支援研修会（東部島根医療福祉センター・島根県）	行政・保健・医療・福祉・教育関係者・当事者・家族 140 人	講演「子供の高次脳障がいと発達障がい」 ～発達に沿って支援を考える～ 講師　千葉県千葉ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ 高次脳機能障害支援アドバイザー 太田令子　氏 事例紹介 座長　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26.8.23	益田圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （相談支援事業所ほっと）	圏域ﾈｯﾄﾜｰｸ構成員・障害福祉事業所職員・当事者・家族 30 人	講演　「高次脳機能障がい者の自立へのアプローチ」 講師　みなくるはうす光 施設長　徳本武司　氏
H26.9.11	ヘルパー研修会 （厚生センター相談支援事業所）	ヘルパー 55 人	講演「高次脳機能障がいの理解 ～支援の実践のために～」 講師　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26.9.16	ボランティア研修会 （厚生センター相談支援事業所）	市社協ボランティア 25 人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26.9.19	施設職員（(社)隠岐共生学園たまゆの杜）研修会 （厚生センター相談支援事業所）	施設職員 22 人	講演「高次脳機能障がいの理解について」 講師　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26.9.19	雲南圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （そよかぜ館）	相談支援事業所職員・市町村担当者 21 人	講演「高次脳機能障がい者への支援」 講師　高次脳機能障害ｻﾎﾟｰﾄﾈｯﾄひろしま 理事長　濱田小夜子　氏
H26.9.26	松江圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （厚生センター相談支援事業所）	圏域内福祉関係者・教育関係機関・医療機関 103 人	講演「高次脳機能障がいの基礎知識」 講師　松江青葉病院 院長　妹尾晴夫　氏 事例発表「デイケアあおばの活動」 発表者　松江青葉病院 PSW　仲西秀之　氏
H26.10.8	施設職員（ふれあい五箇）研修会	施設職員 20 名	講演「高次脳機能障がいについて」 講師　エスポアール出雲クリニック

	（太陽）		院長　高橋幸男　氏
H26.10.22	日本脳外傷友の会 第14回全国大会 ボランティア説明会 （脳外傷友の会らぶ）	島根大学・島根県立大学　学生 14人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師　心と体の相談センター 主任精神保健福祉士　佐藤寛志　氏
H26.10.22	日本脳外傷友の会 第14回全国大会 ボランティア説明会 （脳外傷友の会らぶ）	地域住民 16人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師　心と体の相談センター 主任精神保健福祉士　佐藤寛志　氏
H26.10.24	日本脳外傷友の会第14回全国大会201 in しまね 高次脳機能障がい者支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ研修会 （日本脳外傷友の会）	高次脳機能障害相談支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ及び希望者 82名	講演 「地域における高次脳機能障がい者支援の取組（島根モデル）」について 講師　島根県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦 氏 シンポジウム 座長　島根県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦 氏
H26.10.25	日本脳外傷友の会第14回全国大会2014 in しまね （日本脳外傷友の会第14回全国大会実行委員会、日本脳外傷友の会）	当事者、家族、支援関係者等 419人	高次脳機能障害に関する国の支援 厚生労働省職業安定局 障害者雇用専門官　名倉彰子　氏 文部科学省初等中等教育局 発達障害支援専門官　中山恭幸　氏 国土交通省自動車局 被害者保護企画調整官　小守谷昌利　氏 基調講演1 「脳機能の回復と自己実現」 講師　島根大学　学長　小林祥泰　氏 基調講演2 「高次脳機能障害とともに地域で生きる」 ～脳損傷者のリカバリーへの道と支援～ 講師　エスポアール出雲クリニック 院長　高橋幸男　氏 シンポジウム「ともに生きる」 当事者家族の発表 座長　松江青葉病院　院長　妹尾晴夫　氏
H26.10.30	出雲圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （エスポアール出雲クリニック）	圏域内介護保険・相談支援事業所職員 37人	講演「なんでも聞きたい失語症」 講師　松江総合医療専門学校　言語聴覚士科 学科長　原　順子　氏
H26.11.17	雲南圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （そよかぜ館）	雲南圏域の幼稚園、保育所職員・保健師等 38人	講演　「子どもの高次脳機能障がいと発達障がいについて」 講師　東部島根医療福祉センター 言語聴覚士　山﨑佳史　氏 助言者　県支援ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　土江啓悦　氏
H26.11.29	大田圏域高次脳機能障がい者支援研修会 （亀の子サポートセンター）	圏域内の支援機関関係職員 56人	講演　「子どもの高次脳機能障がいと発達障がい～障がい特性を考える～」 講師　鳥取県立総合療育センター ｼﾆｱﾃﾞｨﾚｸﾀｰ　北原　佶　氏 事例紹介　鳥取県立総合療育センター 言語聴覚士　伊藤洋平　氏

H26.12.6	平成26年度島根県高次脳機能障がい者支援研修会 （西部島根医療福祉センター・島根県）	行政・保健・医療・福祉・教育関係者・当事者・家族 114人	講演　「小児の高次脳機能障害と発達障害～これってどっち～」 講師　西部島根医療福祉センター 脳神経小児科　医長　大野貴子　氏 事例紹介 「子どもの高次脳機能症がいと発達障がい」 座長　島根県浜田児童相談所　所長　宮廻陽吉　氏
H27.2.15 （開催予定）	第8回しまね高次脳機能障害研究会（しまね高次脳機能障害研究会）	支援関係者等 100名	講演　「高次脳機能障害者の日常生活を支えるコツ」 講師　岐阜医療科学大学 教授　阿部順子　氏 座長　エスポアール出雲クリニック 院長　高橋幸男　氏 事例検討会

山口県	
支援拠点機関	地方独立行政法人山口県立病院機構 山口県立こころの医療センター
支援Cd	石原　弥生 川上　真由子 倉田　珠恵 正司　明美
相談者数（12月末） 2014年4月～12月	直接相談　281件 間接相談　324件
活動実績	・支援会議（主催/共催、協力） ・連携会議（主催、協力） ・研修会講師派遣 ・やまぐちリハビリの会：（6回/年間開催） ・支援ボランティア養成のための大学とのコラボレーション演習 ・医療機関対応状況把握のための聞き取り調査 ・認知機能向上のための学習会・交流会主催 （高次脳機能障害、若年認知症の当事者交流及び家族会） ・「高次脳機能障害支援センターだより」発行
次年度の活動予定および課題など	【活動予定】 ・普及啓発のための研修会開催 ・専門職のためのスキルアップ研修会開催 ・連携会議開催 ・当事者、家族のための交流会 ・医療機関との連携強化のための聞き取り調査 【課題】 ・認知リハ実施機関の開拓、強化 ・小児高次脳機能障害者の普及啓発や支援体制の強化 ・相談支援機関におけるアセスメントの充実、専門性の確保

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師

鳥取県	
支援拠点機関	鳥取大学医学部附属病院（脳神経外科高次脳機能外来）
支援 Cd	１名（精神保健福祉士）
相談者数（12 月末）	拠点機関　相談対応延べ件数　414 件（当事者・家族、医療機関・行政等） 家族会　　相談対応延べ件数　310 件（当事者・家族、医療機関・行政等）

平 26 年 6 月 9 日 平 26 年 6 月 16 日 平 26 年 6 月 23 日 平 26 年 6 月 30 日 平 26 年 7 月 27 日	ソーシャルワーク演習 I 山口県立大学とのコラボ演習	社会福祉学部学生 75 人	高次脳機能障害について プログラム企画演習 講師：川上　真由子 倉田　珠恵 正司　明美 石原　弥生
平 26 年 9 月 4 日	MSW 勉強会	宇部圏域の MSW 20 人	事例検討会 社会資源調査 講師：正司　明美
平 26 年 10 月 5 日	高次脳機能障害インテーク研修会	相談業務従事者 42 人	高次脳機能障害インテーク研修会 講師：瀧澤　学

<table>
<tr><td>活動実績</td><td>＜拠点の活動＞
・診断・評価・治療（病棟・外来）
高次脳機能障害専門外来設置(2006 年より)
・相談支援
・高次脳機能障がい支援者研修会の開催（9 月、１月）
・地域の支援機関に対して、講演による啓発

＜家族会の活動＞
<table><tr><td>啓発活動</td><td>・定例会の開催（県内３地区）
・会報の発行
・高次脳機能障害啓発講演、発表
・文化活動
・地域づくり活動への参画</td></tr><tr><td>相談事業</td><td>・電話や訪問による相談活動
・相談センターでの相談</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>次年度の活動予定および課題など</td><td>＜次年度の主な活動予定＞
（１）拠点
・外来創設時より受診経過のある方へのフォロー、神経心理検査などによる再評価
・実務者に対する高次脳機能障がいに対する研修会
（２）家族会
・相談支援活動、定例会等の開催
・地域づくり活動への参画
・生活支援研修会の開催
＜課題＞
・医療機関・施設への障害、制度の理解
・相談支援後の家族を含めた患者さんへのフォロー
・認知療法など精神的なケアの場の必要性
・地域（圏域）ごとの支援体制の強化と支援者間のつながり
・医療機関・支援機関の理解にばらつきがある→すべての医療科に理解が必要。
・子どもの高次脳機能障がいの対応が不十分→教育関係者との学習・話し合い
・子ども、高齢者、女性問題、生活困窮、権利擁護など、家族全体の生活支援に対応できる相談機関の設置。安定した専門支援ネットワークの構築。</td></tr>
</table>

◆研修会等開催実績

開催日	研修会・講演会の名称	対象者 参加者数	プログラム内容 講師
平成 26 年 4 月 16 日	米子市ＹＭＣＡ医療専門学校主催の研修会	学生 40 人	「高次脳機能障害と家族への支援」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会　会長　森田多賀枝氏
平成 26 年 7 月 2 日	平成 26 年度第１回高次脳機能障がい支援普及事業関係者連絡会	医療機関、障がい福祉サービス事業所、	①情報提供 高次脳機能障がい者支援拠

	（主催：鳥取県）	市町村、高次脳機能障害家族会、高次脳機能障がい者支援拠点機関等　23 人	点機関と家族会の活動紹介 ②意見交換 ・関係機関との連携方策 ・関係機関相互の情報提供方法
平成 26 年 7 月 3 日	北栄町精神障害者家族会主催の研修会	会員・支援者 30 人	「高次脳機能障害と家族会の活動」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会　会長　森田多賀枝氏
平成 26 年 7 月 19 日	高次脳機能障害講演会（主催：家族会）	会員・一般 70 人	①「当事者との接し方」 国立成育医療研究センター・リハビリテーション科医長　橋本圭司氏 ②「対談　当事者が伝えたいこと」 ③「住み慣れた街でいきいきと暮らす」 社会福祉法人・地域（まち）でくらす会　理事長　井上徹氏
平成 26 年 8 月 22 日	伯耆町人権セミナー	一般 50 人	「高次脳機能障害者と共に生きる」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会　会長　森田多賀枝氏
平成 26 年 9 月 20 日	平成 26 年度第 1 回高次脳機能障がい支援研修会 （主催：鳥取県、支援拠点）	教育、医療福祉関係者、当事者ご家族など 88 人	講演：「高次脳機能障害の夫との 10 年～最近考えること～」 講師：柴本礼氏
平成 26 年 10 月 15 日	鳥取大学医学部保健学科公衆衛生看護学実習の一部（主催：鳥取県）	鳥取大学医学部保健学科学生等 5 人	「高次脳機能障害と家族への支援」 講師：鳥取県高次脳機能障害者家族会　会長　森田多賀枝氏
平成 26 年 11 月 20 日	平成 26 年度第 2 回高次脳機能障がい支援普及事業関係者連絡会	医療機関、障がい福祉サービス事業所、市町村、高次脳機能障害家族会、高次脳機能障がい者支援拠点機関等　14 人	①事例検討・意見交換 ②情報提供 高次脳機能障がい者支援拠点機関と家族会の活動紹介
平成 26 年 12 月 2 日	精神保健講演会（主催：鳥取市）	当事者、御家族、支援者など　10 人	講演「高次脳機能障がいについて」 講師：鳥取大学医学部脳神経外科教授　渡辺高志氏
平成 27 年 1 月 24 日	平成 26 年度第 2 回高次脳機能障がい支援研修会 （主催：鳥取県、支援拠点）	教育、医療福祉関係者、当事者ご家族など 定員 200 人	①「障害者手帳とは？」 鳥取県西部総合事務所福祉保健局障がい者支援課精神保健担当主事　山岡章氏 ②「障害年金制度の仕組みと実務」 おんだ社会保険労務士事務所社会保険労務士　音田大志氏 ③「介護保険サービスの利用に

			ついて」 米子市福祉保健部長寿社会課介護保険料係　係長　富田隆氏 ④「自賠責・任意保険について（人身事故を中心に）」 三井住友海上火災保険株式会社米子保険金お支払センター 所長　高木圭氏
平成27年2月5日	平成26年度高次脳機能障がい支援者意見交換会（主催：鳥取県）	医療機関、市町、障がい者地域生活支援センター等	高次脳機能障がいコーディネーターによる活動紹介及び意見交換（医療と地域の連携について）

D.　考察

本年度の会議においては、各県の実情に応じた活動が概ね順調に行われていることが確認された。このことは本研究の深化を証明するものであり、本研究事業の有用性が示されたものと考える。また、平成26年度をもって、厚生労働省科学研究「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」が終了することにより、例年通りに本協議会を実施するための予算の確保が困難となるため、中国ブロック連絡協議会の存続の方策についての議題に多くの時間が割かれ、多くの意見が出され活発な意見交換が行われた。この点については課題の性質上、当日の会議の場においての結論が出されることはなかったが、何らかの方法で協議会を継続開催する方向の結論が導き出された。この点については、高次脳機能障害者の社会参加支援の推進といった観点からは、ブロック全体で事業の重要性が認識されているといった点で、成果が着実に上がっている証左を示すものであると考える。

今後も予算的には厳しい状況が予測されるが、中国ブロックでの活動を着実に継続し、各県からの情報を統合し検討することで更なる高次脳機能障害者の社会復帰支援の質の向上に寄与できるものと考える。

E.　結論

中国ブロックとしては、本年度も効果的な活動が行われ、支援の質・量とも年々向上していることが確認された。しかし、まだまだ問題は山積しており、引き続き解決に向けた努力が必要であるとの結論に至った。

別紙３

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
（分担）研究報告書

高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究

研究分担者　永廣信治　徳島大学脳神経外科教授

研究要旨
四国ブロックでは、四県すべてで支援活動が定着し、相談件数増加、精神障害者手帳発行増加等、啓蒙活動の成果が見られるようになってきている。専属コーディネーターが各県で配置され、研修会・講演会も継続的に開催されており、支援体制も整いつつある。成果をまとめ、学会や誌上で発表する。

A．研究目的

医科歯科連携による支援体制強化を図る。問題点の抽出解析により、対策を検討する。講演会・研修会等の啓蒙活動を継続して行う。支援施設の実態調査、スクリーニングテスト実施結果をまとめた結果を、リハビリ等支援に役立てる。

B．研究方法

1. 医科歯科連携による支援体制を更に充実させ、医科歯科連携パス検討委員会を継続的に開催し、アンケート調査で明らかとなった課題解消に向けて検討を行う。
2. 受入協力病院に専任の担当者・コーディネーター等の配置を依頼し、支援体制の強化を図る。
3. 高次脳機能障害事例を登録した共通データベースにより、高次脳機能障害の程度と帰結（就労率および就労の内容、就学率とその内容、問題点）を抽出解析し、今後の対策を明らかにする。
4. 試用を開始した徳島版スクリーニングテストの結果を収集・解析し、障害の状態把握・治療・リハビリ・支援に役立てる。
5. 対象施設に高次脳機能障害に関する情報提供を行い、理解を深める。
6. 講演会等による啓蒙活動を引き続き行い、社会の理解を深める。

（倫理面への配慮）
相談件数、活動状況調査、テスト結果は個人の情報を登録・公開することはないため、倫理面について問題はない。

C．研究結果

各県において講習会・研修会、委員会を開催することにより、当事者・支援機関・施設関係者等への啓蒙活動が継続できており、相談件数の増加、精神障害者手帳の発行増加等成果が見られるようになった。事例を共通データベースに登録して対策を図り、徳島版スクリーニングテストを実施を継続している。さらに支援体制作りに反映させるため、四国一斉調査の結果、問題点をまとめて関係機関に情報公開する準備を行っている。一部の協力施設では、外来におけるグループ訓練を開始している。当事者・家族会と支援機関が協力して講習会やイベントの開催を行っている

D．考察

講演会・研修会等を継続的な開催が定着、各県で専属コーディネーターが配置される等、研究成果が見られた。

スクリーニングテストを実施することで障害の状態が把握でき、治療やリハビリ、支援に役立てることができるようになっている。

E．結論

今後、恒常的な成果の積み上げと発展には、継続的かつ精力的な学術的、社会的活動が必要である。

F．健康危険情報

該当無し

G．研究発表

1. 論文発表
該当無し

2. 学会発表
(1) 中村和己、日野志乃布、大谷尭広、河野光宏、包括的支援により復職に至った交通外傷による高次脳機能障害の１例、第 15 回日本言語聴覚士学会総会、2014 年 6 月 28, 29 日
(2) 中村和己、立花恵理、北出修子、河野光宏、行政区域の枠を越えたシームレスな支援を要した高次脳機能障害の１例、第 38 回日本高次脳機能障害学会総会、2014 年 11 月 28, 29 日

H．知的財産権の出願・登録状況

該当無し